

1 令和5年度の学校評価

本年度の重点目標		<p>①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋げられるよう、ICT機器の有効活用や教科指導法の研究を通して授業改善に努める。</p> <p>②学校生活で自信を深められるように、生活指導や集団生活の環境を整備する。また、SCなどの有効活用や特別支援教育の理解を深め、相談体制も充実させる。</p> <p>③生徒が自らの進路を主体的に考え、そのために必要な社会人として素養を身に付けていけるように教育の充実を図る。</p>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習環境整備 (総務部)	<p>防災・減災に関する計画と工夫</p> <p>式典の円滑な進行</p> <p>P T Aとの連携</p>	<p>・防災・減災対策</p> <p>・式典の円滑な進行</p> <p>・P T Aとの連携</p>	<p>・防災訓練と災害時の安否確認訓練を今年度も確実に行う。昨年度から年2度防災訓練を実施した。今年度も2度の訓練を行う予定である。生徒が適切に行動できるように計画や実施方法を工夫する。</p> <p>・学校生活の節目にあたる式典を厳かな雰囲気の中でしっかり取り組ませる。そして、充実した学校生活につなげる。</p> <p>・P T A総会・保護者会などを通して保護者の意見を聞き、家庭との連絡を密にする。また、役員さんとの調整も確実に行う。</p>
学習指導 (教務部)	<p>生徒の学びに対する興味・関心を向上させ、確かな学力を身につけさせる。</p> <p>成績処理を円滑に実施する。</p>	<p>・授業内容の定着</p> <p>・きめ細かな指導の徹底</p>	<p>・スモールステップの目標設定による達成感を感じさせる指導を継続する。</p> <p>・成績不振者に対して、学習会の設定や始業前の個別指導をより充実させる。また、家庭学習が習慣づけ。</p> <p>・担任や保護者と連携し、欠課が重なってきた生徒に対しては、早期の個別指導を確実に行う。</p>
生徒指導 (生徒指導部)	<p>基本的な生活習慣の確立に向けた、主体的な取り組み</p> <p>人としての在り方・生き方に関する学びの充実</p>	<p>・主体性を高める生活指導の実践</p> <p>・情報モラル教育、人権教育、交通安全教育の推進</p>	<p>・身だしなみ全体指導や自己点検を定期的に行い、身だしなみを整えることへの意識付けや習慣化を図る。生徒間や教員間で相互に理解が得られるよう、点検票をもとに必要なに応じて個別に面談を行う。</p> <p>・情報モラル教育の推進とともに、人権教育や交通安全教育の充実を図る。生徒指導を通じた人としての在り方・生き方に関する学びを充実させ、日常生活で実践できるようにはたらきかけていく。</p>
進路指導 (進路指導部)	年間を通じた進路指導の充実	<p>・進路を意識させる指導の充実</p> <p>・企業、公共職業安定所等との連携</p> <p>・多様な進路希望に対する個別指導の手立てとサポート体制の確立</p>	<p>・担任による面談や進路講話、総合的な探究の時間、進路講演会などを活用し、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>・企業訪問や企業懇親会への参加によって、より多くの企業や公共職業安定所等の連携を深め、求人確保に努める。</p> <p>・大学、短期大学、専門学校への進学希望者はもちろんのこと、3年コース希望者や、高等技術専門学校、中途採用枠による就職、アルバイト先での正規雇用、公務員等を希望する生徒に対して、早い段階から教員で情報を共有し、面接だけでなく小論文指導や一般入試に対する指導を教科と連携して行い、サポート体制を確立させる。</p>
生徒会活動 (生徒会)	<p>執行委員会の機能強化</p> <p>学校規模に合わせた生徒会行事の合理化</p>	<p>・執行委員会の機能強化</p> <p>・学校規模に合わせた生徒会行事の合理化</p>	<p>・生徒会行事の企画・立案段階に開催する執行委員会にて、生徒会役員が行事の企画に関与する余地を増やすことで、行事運営に対する生徒会役員の主体的参画を促す。</p> <p>・小規模校としての現状に合わせて体育的行事を実施する。また、各行事に軽重を付け、体育大会や予餞会等、主要行事の準備期間の時間的猶予を確保するとともに、一時期に集中する準備負担の軽減を図る。</p>
保健教育 (保健部)	<p>健康的な生活習慣の確立</p> <p>健康意識を向上させる活動の計画と工夫</p>	<p>・心身の健康管理の充実</p> <p>・感染症対策の充実</p>	<p>・健康相談や教育相談の充実を図り、生活習慣の見直しや改善を促し、心身ともに良好な状態で学校生活を送ることができるようサポートする。また、生徒情報交換会を活用し、SCや教員間の連携を深めて、生徒の成長を観察し支援する。</p> <p>・他分掌との連携を深め、生徒主体の感染症対策に関する取り組みを促し、創意工夫しながら感染症予防の充実を図る。</p>

	環境衛生の適切な維持及び改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境衛生活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会を活用して生徒の保健活動に関する意識向上を図るとともに、美化活動を年5回実施し、昇降口だけでなく教室清掃も実施する。
食育指導 (給食部)	<p>十分な手洗いの時間の確保及び徹底</p> <p>ハンカチ使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いについての掲示による啓発 ハンカチ使用の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いの時間が短く、石鹸でしっかりと手が洗えていない生徒が見受けられるため、蛇口付近に掲示をするなどの工夫をし、しっかりと手洗いができるようにさせる。 ハンカチ持参及び机上に置かせる指導を徹底する。継続して、黙食や咳エチケット等の感染症対策に関する指導を実施する。ハンカチを忘れた生徒には次回から忘れないように声掛けをする。また食事中、机上にハンカチを出していない生徒がいればその場で声をかけて指導する。
教育ICT (ネットワーク情報)	ICT機器等の利活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器等の活用を促進 外部へ向けた情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用タブレット端末の活用を推進し、教員や生徒に教科の特性や個に応じた活用方法を提案する。活用するなかで、適切なソフトウェアや機器の選択をすることができるようにするとともに、生徒・教員とも情報機器の取り扱いや情報モラルについて正しく理解できるようにする。 定時制ホームページについて、定期的な更新や情報発信ができるよう各分掌に促していく。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ①スモールステップによるきめ細かい指導やICT機器の有効活用を通して基礎学力の定着から発展的な学びに繋げ、またやり遂げていくことで自信を深めながら社会で通用する人間の育成に努める。 ②学校いじめ・不登校対策基本方針に則り、年間計画の遂行と迅速かつ適切な早期対応を行い、生徒達の心身の健康に対するサポート体制を充実させる。 ③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。 	

2 令和4年度の学校評価

(1) 自己評価結果等

前年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習到達度目標を明確にし、主体的に学ぶ態度を育成する。 ②情報モラルを遵守する態度を身に付けさせる。 ③安全衛生委員会などの既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、協働して業務にあたる工夫をする。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習環境整備 (総務部)	<p>防火・防災に関する計画と工夫</p> <p>式典の円滑な進行</p> <p>P T Aとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災対策 式典の円滑な進行 P T Aとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練・災害時の安否確認の訓練を通し、生徒の防災・減災の意識は高まり、実際の場面で適切な行動ができるようになった。 式典への生徒の取り組みは良い。学校生活の節目に当たる各式典を厳かな雰囲気で行えるよう工夫を重ねたい。 P T Aとの連携については確実に行うことができた。
学習指導 (教務部)	<p>学びに対する興味・関心の向上と確かな学力の定着</p> <p>成績処理の円滑な実施</p> <p>教科書給与・還付等の確実な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の定着 きめ細かな指導の徹底 学費に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階から成績不振者に声かけすることができたので、学習状況は概ね良好で追認考査に該当する生徒も1名となった。 今年度活用した生徒が数名しかいなかった。必要である生徒に対してしっかりと伝わるよう、今後も周知徹底していく。
生活指導 (生徒指導部)	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>情報モラル教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活に向けた生活指導の充実 情報モラルに対する知識や理解の向上と意識付け 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は身だしなみ指導を全体指導と身だしなみ自己点検としてそれぞれ3回実施した。生徒が身だしなみを自ら進んで整える意識付けができた。 昨年度に引き続き、欠席・遅刻数が一定回数に達した生徒への生活チェックを行った。しかし、感染症予防等による出席停止のため、欠席・遅刻数の改善につながったとは言い切れない。 今年度は交通事故件数が例年より多く、事故発生時の対応について周知徹底を図る必要が生じた。交通安全教室では、生徒用タブレット端末を用いた遠隔による講話を実施した。各教室で配信することの利点もある一方で、機器の取り扱いや適切な時間配分といった課題も残されているため、今年度の反省を生かしながら改善を図りたい。

進路指導 (進路指導部)	年間を通じた進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を意識させる指導の充実 ・企業、公共職業安定所等との連携 ・多様な進路希望に対する個別指導の手立てとサポート体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間や進路講演会などで、生徒の就職・進学に向けての意識を高めることができた。来年度も継続していきたい。 ・企業、公共職業安定所とも連携でき、求人の確保につなげることができた。 ・今年度は3年卒業希望者や高等技術専門学校、専門学校、通信制大学希望者等、多岐にわたっていたが、早い段階での面談や個別の進路指導、卒業学年担任との連携により進路先を決めることができた。しかし、体制を確立できていないため次年度につなげる必要がある。
生徒会活動 (生徒会)	<p>生徒会役員の確保及び主体性の育成</p> <p>生徒会行事の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員の主体的な行事企画のための役員会開催の働きかけ ・生徒会行事の再編 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規行事である映画鑑賞会における鑑賞作品や実施方法を話し合うため執行委員会を実施し、行事立ち上げに生徒会役員を関わらせることなど、役員の意見を尊重することで、その主体性育成に資することができた。また前後期通じて生徒会役員の定数を確保できた。 ・生徒会行事が体育的行事偏重を是正すべく、冬季スポーツ祭を新規文化的行事に改変することに合わせて、4年生のみで実施していた芸術鑑賞会を新規文化的行事に吸収し、新たに映画鑑賞会として整理再編した。また、昨年度は一部学年のみの実施に留まっていた体育的行事における団制を本年度は全学年に実施した。 ・昨年度に続いて本年度も球技大会を実施したが、生徒数減によって従来のような形での実施が難しくなりつつあり、現状を直視したうえで円滑で業務負担軽減に資する体育的行事実施の形を模索していく必要があると思われる。このために球技大会については実施形態の変更を含めた抜本的变化が求められる。
保健指導 (保健部)	<p>健康的な生活習慣の確立</p> <p>健康意識を向上させる活動の計画と工夫</p> <p>環境衛生の適切な維持及び改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康管理の充実 ・感染症対策の充実 ・学校環境衛生活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談については教職員だけではなく、外部機関ともこまめな情報交換ができ、チームとして生徒対応に当たることができた。 ・部活動では体調チェックや集合時のマスク着用も依頼した。今後も、状況に応じた感染症予防を徹底させたい。 ・生徒美化委員会を中心とした、教室と昇降口清掃を計5回実施し、環境衛生への関心を高めることができた。
食育指導 (給食部)	<p>給食マナーの定着</p> <p>喫食率の維持と向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導及び生徒への積極的な声掛け ・献立の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・黙食や咳エチケット等の感染症対策は概ね定着していた。しかし、ハンカチを机の上に置くことを忘れていたり、ハンカチ忘れをする生徒も目立った。今後も保健部や生徒指導部と連携しながら指導を行う必要がある。 ・定時制昇降口に給食献立掲示板を毎日生徒に示した。翌日の献立も記載するなどの工夫をし、生徒の喫食率向上に貢献した。また、「あいちを食べる学校給食の日」の周知を通して、愛知県の伝統的な食文化についての理解を深めさせた。
教育ICT (ネットワーク情報)	ICT機器等の整備と利活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器等の活用を促進 ・校内及び校外のネットワーク環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレット端末は、第1学年で特に活用されていた。日本語能力に課題がある生徒も、端末を活用して自ら調べるようすがみられた。 ・ホームページについては、校則やいじめ防止基本方針など、これまでの掲載内容を見直した上で、必要な情報を発信することができた。 ・新校務支援システムの導入について、教務と連携しながら進められた。次年度以降は今年度の反省を生かし、改善を図りたい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ禍での学校生活となったが、感染予防対策を講じながら、授業・学校行事を進めることができた。職員間の情報共有やきめ細かな指導を連携して行うことで、生徒自らが自己の行動を振り返り、改善に向けた行動ができた。 ・各行事については踏襲するだけでなく、現状に見合った内容や新たな企画を行うことで、積極的に関与する生徒が増えた。今後は、さらなる主体的な活動に繋がると良い。 		

(2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<p>①スモールステップによるきめ細かな学習指導をとおして、学び直しを含めた基礎学力の定着を図り、上級次の発展的な学びにつなげる工夫を図る。</p> <p>②S C来校日などの機会を捉えて、生徒の情報について教職員で定期的に共有するとともに、生徒への対応について助言や協議を行う機会を設定するなど、生徒達の心身の健康に対するサポート体制を充実させる。</p> <p>③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動全般において、教員の落ち着いた環境を確保できている。 ・学校いじめ防止基本方針に基づき、年5回の面談週間や生活アンケートを通して、生徒の悩み等へ教員が連携し、迅速かつ丁寧に対応することができている。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業展開をさらに研究し、生徒が主体的に学ぶ学習環境を整えていく必要がある。 ・職員間の情報共有やきめ細かな指導を連携して行うことで、生徒自らが自己の行動を振り返り、改善に向けた行動ができた。これらを通して、生徒自らが達成感を感じ、自信を深めていけるように促す。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の更なる有効活用や授業改善のための教員研修の充実に加え、生徒の実態調査調査などを有効に活用してもらいたい。 ・主体的な進路選択に導けるよう更なるキャリア教育の充実を図ってもらいたい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	全日制に同じ。